

平成 20 年度宮前区民会議 公園・地域づくり部会（第 7 回）摘録

日 時 平成 21 年 1 月 20 日（火） 午後 6 時から 8 時

会 場 宮前区役所 4 階第 4 会議室

参加者 田邊部会長、久保委員、佐藤委員、福本委員、目代委員、吉岡委員
永野委員長、川西副委員長（オブザーバー）
田邊企画課長、中山主査、成沢職員（以上、事務局）
福田研究員（コンサルタント）

傍 聴 0 名

開会（田邊企画課長）

前回の議事内容の確認

第 6 回議論のまとめ（コンサルタント）

1 議事

（1）具体的な課題解決策について

事務局が「資料 3 公園・地 具体的な課題解決策 検討資料」と「第 2 期宮前区区民会議 今後のスケジュール（案）」を説明し、意見交換をしました。

田邊部会長 公園の活用事例などについてご意見をいただきます。

福本委員 現状の課題、利用者間のニーズ調整について伺いたいです。家の公園では 3 つの町内会自治会が合同で混線しています。掃除は野川台がして他は関わりません。公園利用のルールもできていません。他の公園で清掃をどうしているか、ルールをどう決めているか、町内会が重なったときにどのように分担するのか、見本になるところがあれば参考にしたいと思います。

吉岡委員 鷲ヶ峰公園は面積が広くなく、利用の申し込みも多くなく、自由に使っています。清掃は自治会で大きなものを年に 2 回、他に毎週清掃をします。

目代委員 民生委員協議会で活動する中でよく聞くのは、野川、宮前平、土橋などで体操が増えてきていますが、近くにあれば行きたいという人が多いです。誰かやる人がいないかなと言っています。50、60 歳で体を動かさないといけないのはわかっていてもきっかけがない人たちです。体操は、体を動かすので介護予防になり、友達ができ、子どもたちが参加できる仕組みができ、集まるきっかけづくりになります。

福本委員 体操は委員の鈴木恵子さんがリーダーをしています。毎週、50～60 名が集まります。鈴木さんに問い合わせると作ってくれると思います。子どもからおじいさん、おばあさんまで参加しており、人数も逐次増えています。

弊害もあります。私の自治会には既存の老人会があります。そこに加入していない人たちが、ダイヤモンドという新しく小さい拠点を作ります。その拠点に老人会に入っていない人を集めるため、反目があります。これが弊害の一つです。既存の民生委員がリーダーになる組織に、クサビを打ち込まれることになります。同じ自治会の人ですが、その人たちは老人会には参加しません。それが組織対組織になりマイナスになります。

永野委員長 老人会以外にも既存の団体がそれぞれに活動していますが、多様化していることにうまく対応できません。そこに入りづらい新住民と言われる人が、自分たちで作って補っていきます。既存で頑張っている人たちは、反発するかも知れません。既存の団体の中から新しい活動が生まれ、活動隊がたくさんできるといいと思いますが難しいです。

久保委員 土橋は町内会が一つで、公園清掃も町会の子ども会が担当し、年に2回草刈清掃をします。マンションの公園は愛護会が立ち上がったので、そこは町内会が関知しないといわれ、愛護会を次の世代に引き継ぎたくても担い手がない現状があります。宮崎第1公園や、宮崎第4公園で自主保育活動をしていたときは、子どもが崖すべりをすると土が剥がれて木に悪いのでどうするかといった話し合いをしました。トラブルがあってこそ話し合いをして、お互いの活動を知り合うことができます。ただ、誰が話し合いをするかです。

永野委員長 新しくやるときに、既存組織の人を代表に祭り上げ、中身は自分たちで決める。地域に認めさせるには、既存の方に代表になってもらうなど、知恵を使わないと難しいです。

ふるさと公園のプレイパークも、子ども会の会長等を誘って一緒にやります。我々は見ているだけですが、上にそういう人がいることでやりやすいです。古い人たちを無視して、新しい人たちだけで突っ走ると拒否されることになります。

田邊部会長 愛護会はその公園を面倒見ようという人たちの小さなグループだと思います。野川のような広い範囲で自治会は一つですか。

福本委員 実際には、野川台、野川町会、西団地の3つで使います。今は寒いからいいですが、暖かくなると、キャッチボールをする人、ゲートボールをする人などいろいろ出てきて、問題が起きます。各グループの長を集めて割り当てを決めるような形で、できるだけ公平に使いたいです。

田邊部会長 野川は公園も多いですが、体操をする組織も多いですね。

福本委員 体操は鈴木さんが野川全体の責任者のような形でやっています。

事務局 野川周辺の状況は、資料3の左、日常的な利用が多く、そうすると下のニーズの調整などが必要になるのでしょうか。公園の利用を活性化するには、図が回転していることがいいわけです。回転が止まると問題が発生します。順繰りに回転することで渦になり、その渦が小さくなるとコミュニティになるのかなと思います。回転することで、より密着した強いコミュニティになると感じました。野川のように利用が多い公園ばかりではありませんから、まずきっかけづくりのためにはどういった手法なり工夫があるか、その知恵を皆さんに出してもらい、区民会議の提案につながると思います。

田邊部会長 公園緑地管理運営協議会は、自治会と愛護会と一緒にすると聞いたように記憶しています。野川のように広い場合はどうなるのですか。

福本委員 第3公園と第4公園は清掃担当が決まっていますが、第2公園は決まっていません。第3公園で体操をしていますが、全体の人にこの時間に体操をしますというメッセージはありません。キャッチボールをしている公園もありますが、公園の中を通る人もいるので、バットを使ってはいけないと注意をしています。暖かくなると、利用者間でいざこざも起きます。そのときに、組織があれば管理できます。各グループに責任者を置き、責任者が集まってルールを決めた方がいいと思います。野川はみんな勝手にやっているようです。

田邊部会長 すべての公園緑地管理運営協議会に、自治会がタッチしないといけないのですか。

事務局 そんなことはないです。できる範囲でやれば結構です。自治会空白地域はありませんので、公園緑地管理運営協議会を作るときには自治会を含め、公園に関する利害関係のある団体にはすべ

て入ってもらうことがルールになっています。

以前、川崎フロンターレのタウンミーティングの時に、参加者から市内にサッカーをする場が少ない、できれば公園でボールを蹴りたいという話がでてました。やりたいけれど、自治会からダメだという話が出るということです。ニーズがあれば、そういった調整も必要になりますが、この部会では、現状そこまで至っていない、使われていない公園が多いという意見が多かったので、せっかく地域のオープンスペースとして公園がありますから、どう目を向け、使ってもらうかを議論いただいた方がいいと思います。

田邊部会長 無理に管理運営協議会の組織をつけると考えなくてよいですね。愛護会、公園緑地管理運営協議会、自治会、老人会、子ども会といった組織になったときに、管理運営協議会を大きなものと考えず、一つの団体として捕らえてもいいですか。

事務局 これまでそういった議論をしてきましたが、コミュニティを作るのはどこがスタートということはありません。その上で前回からきっかけづくりの話も出ていましたので、視点を変えて議論を先に進めていただければと思います。

久保委員 私も学童期の子どもがいて、公園を利用しています。自治会にも参加しており、さまざまな事例がごっちゃになっているので、自分の中で整理するために資料を作成しました。

(資料4「子育て自主活動グループから見た現状と提案」を説明しました。)

運営協議会の話が出ていますが、子ども会をしているのでわかりますが、次の担い手探しが大変な状況です。管理運営協議会を作るにしても、次に繋ぐことを考えてほしいです。

イベントは、イベントの内容が目的であり、公園の運営管理を意識づけるものではないと思います。大きなイベントではなく、体操でもいいですし遊びでもいいので、日常的なイベントがあり、そこから管理運営協議会につながるようなもの、コーディネーターになるような人が出る仕組みができるといいです。世田谷区では乳幼児の親子が公園に来ないということで、子育て支援としてどうすれば来てもらえるか、公園が利用しやすくなるかを調査して動いています。防災のリヤカーにツールを載せて、10時から2時くらいの間そこにいて、落書きやおままごとをする仕組みです。宮前区は坂が多いので、車で運ばなくてはダメかも知れませんが、どんな公園にも行けて、遊具がない公園でもそれに変わる物ができ、身近な人が利用できます。世田谷区は乳幼児対象のプレイリヤカーですが、お茶の道具や体操の道具などを乗せてもいいと思います。あまりいろいろな世代を対象にするとバラバラになるので、乳幼児対象です。

田邊部会長 生後1、2年は行政が手厚く、建物の中で何かを教えていくとか一緒にやるのが多くなってはいないでしょうか。そこから公園に行くチャンスはどうでしょう。

佐藤委員 今の説明が、建物ができて公園の利用が減ったので、こういうことをしてはどうかという提案だったと思います。

永野委員長 世田谷区でリヤカーを引いている人はどういう人ですか。

久保委員 公園サポーターを育成する事業があります。家庭教育学級として遊び方やトラブルの対応などについて学び、ボランティアでやります。学生も対象です。リヤカーをどこに置くかが問題です。

田邊部会長 公園によっては防災用具の倉庫があり、そこにリヤカーは置いてあると思います。

川西委員 久保委員の提案はまったくその通りです。子育ての分野から新しい子育てを自主的に担うリーダーづくりまで考えていると思います。私は25年前に毎週3歳以上の親子を集めて自主保育をしました。そのときは集団運営委員会として10名のママが企画をしました。保育大学の学生

に子どもたちの指導をしてもらいましたが、企画はすべて親がしました。その間、行政に補助金をもらい、テレビで放送してもらおうなどいろいろやりました。メンバーは企画をする楽しさを知り、継続的な活動の仕方を勉強し、それぞれ小学校に散ってから未だに活動しています。

公園が活動の場になるのはいいことですが、お話にあったように、阻害要因があります。目代さんなどにお知恵を貸してほしいですが、昨年の子育て部会の提案をもとに「宮前区子ども支援関係者連絡会」を作りました。それによって育児広場ができましたが室内に偏っています。今のお母さんの中には、外気浴をいつからやったらいいのか知らないお母さんもいます。できれば外遊び、あるいは集団で遊ぶことが、人間形成に大事だということを誘導してもらいたいです。それをするには、公園・地域づくり部会を立ち上げましたが、私たちだけで仕掛けるのは無理な話です。子育て支援に誘導してもらい、働きかけをってもらうなど、区が本気になって連携しないと無理です。公園の日常的な利用、イベントでの活用とありますが、公園を利用しないと始まらない話です。体操がヒットしたのは、継続的に見える形で人を呼ぶわけです。企画ができるところは、どんどん企画を起こしてもらい。ただそのためには、宮前区は公園を財産のように思っていて、これから公園に出てきて遊びましょう、あいさつしましょうと、大々的にアピールしないとできない話だと思います。

公園の広さや立地によって利用の仕方が違います。体操や保育などに使いたいところは調整が必要になります。公園緑地管理運営協議会があるので、年に1回の集まる機会に、協議会の主旨替えを徹底させましょう。掃除や管理、利用者の調整だけに終わらず、新しいニーズを取り上げたり、既存の団体がやっている行事とドッキングさせる導きをするなど、それはまさにコーディネートです。そういうことをしないとだめですよと徹底することからしか、スタートできないと思います。そのためには、宮前区は公園を大事に思っているということを意思統一して取り組みます。

それと平行して、すでにやっている公園体操もどんどん進めます。夏休み体操とドッキングすれば、子どもたちが親を連れてくるし、おばあちゃんたちと仲良くなるかも知れません。以前も話しましたが、公園に健康遊具があるだけでみんな出てきます。宮前平では、以前、青空市やフリーマーケットをしました。主体は自治会や町内会と話をし、みんなで集まってやりましょう。学校との連携もあります。公園で遊ぼう、公園を知ろうというのが小学2年生の教材にあり、必ず公園に行きます。学校の中にコミュニティスクールのような受け入れがあるなら、一緒にやりましょうと学校現場に呼びかける。これには学校との連携がないとできません。

今、地域安全マップの検証をしており、かならず公園をチェックします。金網が壊れているなど問題があったときに、町内会の方に声をかけ、高いお金をかけなくてもみんなで改善する。とりあえず、みんなが公園に足を向ける企画が見える形で継続的に実施しないと無理だと思います。それを公園緑地管理運営協議会のでこ入れて、乗ってきたところから進める。公園だよりを区で出すのもいいでしょう。そうすると、行政の担当窓口も必要になります。今は遠いところに公園事務所がありますが、それが役所内という話もあるようです。

公園サポーターの養成も、東京都などは羽根木公園でいかに公園を使うか研究が進んでおり、市民館が積極的にやります。宮前区も公園を本当にやるのであれば、市民館などの企画事業の中に積極的にやるなど、働きかけを一斉にやらないと、どこも燃えてこないと思います。

事務局 現在、市内部で組織の見直しがされていて、区ごとに組織を置きます。宮前区は西部公園事務所が物理的にも組織的にも遠いです。平成22年の4月から、建設センターに組織として入りま

す。そうなると物理的にも近くなり、組織的にも区長の権限下に入るので、意思がダイレクトに入ることになると思います。

屋外型の施設は充実していて、雨の心配がないのでそちらに流れるのはわからなくはないですが、改めて外遊びができる公園の良さを見直し、意識の醸成を図ることが必要だと思います。また、公園だより、公園サポーターの話がありました。第1期の区民会議の提案で、防災推進員の提案があり、今月末から研修会を開催しています。そういった形で、宮前区にもオリジナルの公園サポーターがいて、公園緑地管理運営協議会をサポートする流れがあってもいいのかと感じました。

永野委員長 青少年指導員、子ども会は昭和40年代に作られた制度で、学齢期の元気な子どもたちを応援する組織です。学齢期の元気な子を集める組織はたくさんありますが、今は世の中が変わり、もう少し小さい子ども、引きこもりの子どもの応援の組織がないです。宮前区でそういうものを始めてもいいです。学齢期から幼児に目を向けることを行政的に対応すれば、われわれの世代も時間が取れますので、できるのではないかと思います。その辺の制度の趣旨を見直す時期に来ていると思います。

川西委員 こども文化センターとセットになっている公園はモデルになりやすいです。そういうところは大きな公園が多いと思います。こども文化センターは各中学校区には一箇所あるわけです。

田邊部会長 こども文化センターをつかっている方は、公園には出て行かなくはないですか。

川西副委員長 そんなことはないです。それは導きや企画がないからです。

永野委員長 外は危険が伴うので、リスクをどうするかです。怪我してもいいという意識をどう持たせるかです。ディスカバーウォークで400人分のカレーを作りたいと思いましたが、ノロウイルスが流行っており、米だけもってこさせるとカレーとどちらに原因があるのかわからないなど、リスクが多く止めざるをえませんでした。行政がウンといわないことを無理やりはやりません。有馬ではロープ遊びをさせますが、落ちて怪我したら誰が責任をとるかとなると、止めようということになります。リスクの取り方をどうするかを解決しないと、いろいろな意見が出てきます。保険をかけても、行事保険は見舞金程度しかできません。

川西副委員長 治療費も出ます。何でも企画だと思いますが、どこがやるかです。

佐藤委員 具体的なきっかけづくりとして、前回いろいろ提案しました。全ての世代で共通でできるのは体操だと思います。同級生には独身の男女が多くいることがわかりました。私たちの世代は、健康のことが気になる世代です。区役所のホームページを見ると、メタボや食生活の教室が多いです。土日に公園を使い体操をしましょうなど、中間層世代の独身でも誰でも来られるもの、健康目的で来てもらうものもいいかと思います。最終的には高齢者や夏休みの体操と合体する。中間層は参加しづらいです。スタンプラリーには子どもがいないと来ません。身近なところでやれば、体操には来るのではないのでしょうか。

福本委員 今公園をどこのグループが利用しているかを考えると、体操は長くても30分です。瞬間的に人間は多いけれど一瞬にしていなくなります。長時間公園を利用するのは、子育ての親子で、お母さんたちに働きかけてやるのが手っ取り早いと思います。

目代委員 私体操がいいと思います。短時間でも人が集まれば、公園に明るい気が集まります。暗い、誰もいない公園では足が遠のきます。気が集まれば、自ずと足が向くと思います。

福本委員 体操は時間的にも短いです。動員数は多いです。相乗効果はあると思います。

川西委員 公園は屋外ですから、公園でないといけない遊びを考えると道が見えてくると思います。夏は大きなプールを用意して水遊びをさせるといいです。そういうことを、公園緑地管理運営協議

会を招集して、公園に人に来てもらうために企画を立てませんかと声をかけます。それが例えばプールです。あるいは公園にニックネームをつけようということを全小学校でやりましょう。管理運営協議会が主体になりやってみます。実際は行政やサポーターが手伝わないといけないでしょうが、そういうのが一番現実的かと思います。

佐藤委員 スタンブラリーもやりたいです。声をかけて、スタンブラリーに参加してもいいというところを募り、区役所に戻ってくるという案でした。どの公園が楽しかったなどアンケートをし、その結果をみやまえぼーたろーに載せる。ランキングにすることで、公園に目を向けます。区民会議の活動が伝わりにくいですが、ぼーたろーに載せることで、公園に来てもらうことと、区民会議のPRとの両方ができると思います。

福本委員 野川でカルタラリーをしました。一番大変なのは要員が動員できないことです。経路や各交差点に交通整理を置かないといけないし、きちんとした組織でないと難しいです。

佐藤委員 各公園の木にスタンプをぶらさげておいて、簡単に押せるようなものでもいいです。

永野委員長 ディスカバーウォークは4地区から一つの公園にクイズをしながら集まるので、そこにスタンブラリーを組み込むことは可能です。青少年指導委員会と子ども会の共催です。本来は人材を集めるのだから、PTA、地域教育会議、子ども会などが新しい視点でやるのが重要で、運営協議会は動けないと思います。

川西副委員長 最初に話しがあつたように、地域でことを起こすときには、旧体制と新しいグループがあるわけです。ですから、まず公園緑地管理運営協議会の人に集ってもらい、今度からもっと多くの人の力を借りてやりませんかと持っていく。そこには町会自治会の人はずいぶん入っているので、そこをつかむのが目的です。

ラリーをこの冬空に人を出してもらうなら、ただで物を出すことです。近場の農家の方などに声をかけ、花がもらえる、大根がもらえるということになると人が出て来ます。何かやっているんだなというアピール感は伝わります。企画はたくさん出ます。企画を出してやれそうな雰囲気と、それをバックアップする組織を作らないと動かないです。

田邊部会長 具体的な案が出てきています。きっかけづくりは体操やスタンブラリー、公園でできる水遊びなどの形で具体例をまとめて、今後の提案に持って行ってはいかがでしょう。

目代委員 今年、「とことこ」という幼児向け本の改訂があります。そこには公園について書かれ、子育て関係の情報が載っています。お母さんたちが実際に歩いて作ります。行政が作るものではなく、高齢者もほしいと言います。それとリンクできればいいと思います。子ども支援室が担当です。お伝えできればと思います。

永野委員長 区長へ提案するとき、どういう形で提案するかを21年度にやらないといけません。区民みんなで参加して公園を活性化する方法を提案します。その際に、公園でどんな遊び方をしたいか、どういう公園になってほしいかという公園の情報を、一般の区民から意見を取り入れる作業をしてもいいかと思います。宝探し部会はアンケートをします。2月21日にまちづくり協議会が主催する会合では、ガリバーマップをします。そこに自由に書き込む欄があるので、この公園でこういう遊びをしているということを書き込んでもらってもいいでしょう。既存のイベントが2月にあるので、公園の楽しみ方、こういう公園になってほしいということを集めてもいいと思います。

川西副委員長 区民会議のフォーラムで集めてもいいです。

(2) 区民会議フォーラムについて

事務局が「資料5 宮前区区民会議フォーラムの開催について(案)」を説明し、意見交換をしました。
事務局 事例紹介の団体としてどこを呼んだらいいかを確認し、来ていただけるか委員さんからコンタクトを取り、参加をお願いしていただきます。分科会に分かれたときに、どんな内容で意見交換をすればいいかを踏まえ、事例を選んでください。

田邊部会長 前回、吉岡委員から伊田さんのお名前が出ていました。他にもこういう人という候補がいらっしゃればと思います。

永野委員長 若いお母さんが公園を使えないということで、若い人がどうしているか事例が発表できればいいです。

目代委員 体操なら、鈴木恵子さんになるでしょう。

永野委員長 フォーラム全体の流れは、各部会の報告があり、その後地域事例の紹介です。それを持って、分科会で会場の人たちと何をやるかということです。

久保委員 体操もありですし、プレイパークもあります。

目代委員 体操はポピュラーですぐ発言しやすいので、子育てのお母さんたちの話は接する機会が少ないのでいいでしょう。

佐藤委員 年齢層の高い参加者が多いので、新鮮な子育て世代の人の事例の方が、そういう活動があることを理解いただけていいと思います。

川西委員 体操は区民会議の施策にも入っていますし、部会長の発表にも入るでしょう。

永野委員長 課題も一緒に出してもらえるといいです。その課題を分科会で検討できるといいです。

久保委員 公園を活用するアイデアは持っています。

佐藤委員 地域の人向けにフリーマーケットをしたり、料理をするとそれを真似して火を使う人が増えるなど、問題点と良い点を含めて発表してもらおうといいものになると思います。

永野委員長 それを解決するためにこういうことをしたいなど分科会で意見交換ができます。

久保委員 相談してみます。

事務局 事例の報告なので、事実のまま紹介してもらえれば結構です。

川西委員 分科会で聞きたいことが3つあります。あなたはどんなことを公園でやりたいか。どんなことがあればあなたの公園デビューができそうか。みんながそれぞれしたいことをできる公園になるためにはどうしたらいいと思うか。ニーズが取れ、でかなえるための支援や手助け、で自分のことだけでなく全体的な利用調整のような話ができると思います。

事務局 確約はできませんが、公園事務所にも参加をお願いします。

事務局 火を使っちゃいけないといいますが、きちんと届出をすれば使っても問題はないんです。いろいろな誤解があります。

川西副委員長 フリーマーケットもいいんですね。

事務局 きちんと手続きをとればできることはたくさんあるはずですが、そのことをきちんと伝えないといけないですね。

佐藤委員 分科会のディスカッションは、1グループですか。一昨年のフォーラムに来たとき、すごい人数でした。大人数になったときには、グループに分かれた方がいいです。

事務局 そのときに考えます。グループを作ると委員さんも分かれなれないといけないので3月に検討します。

佐藤委員 まちづくり広場に子連れで来る人も多そうなので、アンケートを作れるといいです。

川西委員 模造紙を聞きたいテーマ枚数用意し、葉っぱの形のアンケート用紙に書いて貼ってもらうのが、一番簡単。

佐藤委員 そういうものを作り、いろいろなところで区民会議の呼びかけをできるといいです。

2 その他

次回：3月5日（木）18:00 から開催予定

確認事項

1. コミュニティのきっかけづくり

- ・コミュニティのきっかけづくりについて、意見交換をし、スタンプラリー、水遊び、体操など、さまざまな提案が出ました。
- ・提案の実現には、公園緑地管理運営協議会の人たちの意識を変え、既存の組織や一般の人たちが一緒に進めることが重要です。そのためには、宮前区では公園をまちづくり一つのテーマとすることを広くアピールする必要があります。
- ・大きなイベントも重要ですが、日常的に催しを実施することで、公園緑地管理運営協議会の担い手やコーディネーターへと結びつく仕掛けができるとよいでしょう。
- ・みやまえぼーたろーなどを活用し情報発信をすることで、公園に対する意識を高めるとともに、区民会議の活動内容を知ってもらうことが重要です。

2. 区民会議フォーラムについて

- ・公園・地域づくり部会では、地域活動事例の紹介として、「ポレポレ」に参加をお願いすることになりました。
- ・区民会議フォーラム分科会では、事例紹介を踏まえて、あなたはどんなことを公園でやりたいか。どんなことがあればあなたの公園デビューができそうか。みんながそれぞれしたいことをできる公園になるためにはどうしたらいいと思うか。といったことについて意見交換をすることになりました。
- ・区民会議フォーラム以外にも、区内で開催されるイベント等を活用し、区民の公園に対する意見を収集したいという意見がありました。